

統計だより

県内各市町の統計所管課だより(その9五島市)

五島市総務企画部政策企画課 坂瀬 良太

【五島市の紹介】

五島市は、長崎港から西方約 100 キロメートルの東シナ海上にある五島列島の南西部に位置しています。11 の有人島と 52 の無人島で構成され、その大部分が西海国立公園に指定されているなど、雄大な自然環境を有しています。面積は約 420 平方キロメートルで、地形はなだらかな溶岩台地から 200～400 メートル台の山地まで起伏に富んでいます。また、海岸線は複雑に屈曲しており、美しいビーチから海食崖まで多様であり、規模や形態ともに非常に珍しいことから、その地質遺産や大地と人々との暮らしのつながりを活かし、ジオパークの取組みを推進しています。

気候は対馬海流の影響を大きく受け、冬は暖かく夏は比較的涼しいといった海洋性の気候（西海型気候区）に属しています。温暖な気候のため植生も多様で、代表的なものとしては夏には白いハマユウが、冬には赤い椿が島の各所で見られます。特に椿は市内の山林に多く自生しており、日本有数の椿の島として知られています。

また、五島列島は古来より中国大陸とのつながりもあり、数多くの文化や風習が残されています。奈良時代から平安時代初期にかけては、遣唐使船の日本最後の寄港地として利用され、その歴史は日本遺産にも登録されています。そして、平成 30 年 7 月には、「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」が世界文化遺産に登録されました。本市では久賀島の集落と奈留島の江上集落の 2 つが構成資産に含まれており、厳しい弾圧に耐えながら信仰を守り通した歴史が国内外から大きな注目を集めました。

こうした自然環境や歴史・文化を目的として島を訪れる観光客は令和元年に過去最高となる 252,657 人を記録しました（五島市観光統計）。移住者数も増加傾向にあり、令和元年には 228 人が五島市へ移住するなど、県内でもトップクラスの実績を残しています。

【統計について】

国勢調査によると、五島市の人口が最も多かったのは昭和 30 年の 91,973 人で、最新の国勢調査（平成 27 年の 37,327 人）と比較すると、60 年で約 60%減少し、人口減少対策が最重要課題となっています。

こうした中、平成 29 年度に有人国境離島法が施行され、同法に基づく「特定有人国境離島地域社会維持推進交付金」や地方創生交付金等を積極的に活用し、雇用の拡大及び移住促進等の各種施策を展開してきた結果、令和元年の 1 年間でみると、社会動態がプラスに転じました。

長崎県異動人口調査によると、五島市の令和元年の転入者数は 1,289 名、転出者数は 1,256 名で、転入

者数が転出者数を 33 名上回りました。五島市における社会増は、同調査が始まった平成 9 年以来、初めてのことです。

| 区 分 | | 2015 (H27) | 2016 (H28) | 2017 (H29) | 2018 (H30) | 2019 (R1) | |
|------|------|---------------|---------------|---------------|---------------|--------------|-----------|
| 人 | 社会動態 | 転入 | 1,265 | 1,115 | 1,187 | 1,285 | 1,289 |
| | | 転出 | 1,477 | 1,336 | 1,322 | 1,451 | 1,256 |
| | | 差引 | 212 | 221 | 135 | 166 | 33 |
| 口 | 自然動態 | 出生 | 215 | 214 | 190 | 221 | 196 |
| | | 死亡 | 667 | 653 | 659 | 663 | 618 |
| | | 差引 | 452 | 439 | 469 | 442 | 422 |
| | 増 減 | 664 | 660 | 604 | 608 | 389 | |
| 移住者数 | | 42 | 59 | 105 | 176 | 228 | |

このことについて、複数のメディアからの取材にあたって、過去の統計や他の関連する統計等をもとに要因分析を進めていく中で、統計分析の重要さと、社会的指標としての統計の確固たる信頼性を改めて実感したところです。

来年度は、開始から 100 年を迎える国勢調査が実施されます。地域、ひいては全国の現在を正確に把握し、そして未来へとつなげるために、正確な統計の作成に取り組んでまいります。調査へのご協力のほどよろしくお願い申し上げます。